

工藤篤子メールマガジン 144号 2009.08.26

●ヘルシンキ(フィンランド) ●ローマ(イタリア)

ハンブルクは、まだまだ快適な夏日が続いています。

皆様、いかがお過ごしでいらっしゃいますか？

8月は、フィンランドとローマにて、感謝に溢れる奉仕をさせていただきました。

今日は、長くなりますが、その二つの報告をさせていただきます。

(写真右上：ローマ、サン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂)



●フィンランド・第26回ヨーロッパ・キリスト者の集い



8月5日～9日、フィンランドのヘルシンキにて、『第26回ヨーロッパ・キリスト者の集い』が開催されました。今回の大会では、「十字架のもとから」のテーマのもと、受けるだけでなく、人々にもキリストの愛と救いを伝えようと、町へ出て伝道するアウトリーチも組み込まれました。主の大きな恵みと祝福に溢れた大会でした。それは、イエス様が大会の中心に、ご自身の十字架の愛と赦しを溢れさせてくださったからだと思います。

福音の真髄に立ち、少人数ながら、心のこもった準備をしてくださり、主のみこころを切に祈り求めながら労苦してくださったフィンランド実行委員会の皆さんと、心砕かれるメッセージを語ってくださった講師の先生方に、そして何よりも、全大会をあれほどまでに祝し導いてくださった主に、心からの感謝を捧げます。

♪賛美チーム

私は、今回の大会で、ミラノの内村まり子さんと賛美チームのコーディネーターとして奉仕させていただきました。ヴォーカル、ギター、ヴァイオリン、ピアノ、キーボード、パーカッション、PA、パワーポイント奉仕者と、合計17名のメンバーが、大会の全プログラムの賛美をリードさせていただきました。

朝、6時すぎから時に夜中まで、落ち着いて食事をする間もなく、日々4～5時間の睡眠の中での奉仕でしたが、共に祈り合い、分かち合い、進んで仕え合う中で、みな大きな喜びに満たされ、み霊にあってひとつとされながら、私たちの奉仕は進んで行きました。



2 日目の早朝、宿舎を出ると、外は真っ白い霧が立ち込めており、先が見えないほどでした。私はその時、ソロモンが神殿を完成して、レビ人たちが神に向かって賛美したとき、宮が雲で満ちたことを思ったのです。それは、大会の賛美が、そのようなものになることを願いながら、胸に刻んで来た箇所でした。主が私たちを祝福してくださっている！そのことを相棒リーダーのまり子さんに話したら、彼女もその聖書箇所を心に刻み、私たち賛美チームがひとつとなって主に賛美を捧げ、主の栄光が満ちることを祈りながら備えて来られたことを分かち合ってくれました。

Ⅱ 歴代誌 5:13~14

ラッパを吹き鳴らす者、歌うたいたちが、まるでひとりでもあるかのように一致して歌声を響かせ、主を賛美し、ほめたたえた。そして、ラッパとシンバルとさまざまな楽器をかなでて声をあげ、「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。」と主に向かって賛美した。そのとき、その宮、すなわち主の宮は雲で満ちた。



祭司たちは、その雲にさえぎられ、そこに立って仕えることができなかった。主の栄光が神の宮に満ちたからである。

そして、私たちは、一日中主に賛美を捧げることによって、絶大なる神の愛に触れ、心砕かれ、献身に導かれる者、賛美者としての召しを確信した者が起こされました。素晴らしい神のみ業に、今もなお深い感動をもって主に感謝を捧げています。(写真右上：賛美チーム)

●ローマ

華人聖会(8月14日、15日)

フィンランドでいただいた溢れる恵みとともにハンブルクへ戻ってから、休む間もなく、4日後に始まるローマの華人聖会とコンサートの準備を始めました。

ローマには約10万人の華人(中国人、台湾人)が住んでいます、そのうちの約3000人がクリスチャンだと言われています。イタリア全土では、華人クリスチャン数は1万人以上に及ぶそうです。そして、毎年夏、主催地を変えて、イタリア華人聖会が行われてきました。今年のローマの聖会にも、イタリアの各地から多くの華人クリスチャンがバスでやって来ました。(写真右上：聖会の講師の先生方、スタッフの皆さんと)



今回は、残念なことに日本語を話せる中国人通訳者が来られなくなったため、華人の皆さんとのコミュニケーションの唯一の頼みの綱は、私の片言のイタリア語だけでした。でも、みなさん、ことばがうまく通じなくとも、とても優しい心遣いをしてくださいました。

聖会では、朝 9 時から夜 10 時まで、昼 1 時間、夜 1 時間の食事休憩以外は、講師として招かれた中国最大の教会である杭州の崇一堂の主任牧師、顧 约瑟 師と、シンガポール福音同盟会長の頼 木森 師が、90 分ずつ交代でメッセージをしました。



何を語っているのかさっぱり分からないのに、先生方の、それはそれは迫力のある語り口に鳥肌が立ち、主の臨在を感じて、よく涙が溢れました。また中国語賛美で歌ってきた、イエス・キリスト、神、十字架、恵み、愛、復活などの言葉が出てくる度に心が熱くなりました。私は中国語の賛美歌を 2 曲賛美させていただきました。

聖会には毎日 1500 人以上の華人が参加されていましたが、最後に、100 人以上の人たちが決心し、洗礼を受けました。ほとんどが 20 代

の若者でした。(写真左上：洗礼を待つ女性グループ)

♪ 礼拝賛美(8月16日)

翌日の聖日は、朝、昼、夜と 3 つの華人教会の礼拝に出ました。私は 2 回の礼拝で賛美奉仕をしました。3 回目の教会は、多くが若者で、素晴らしい賛美を捧げる教会でした。何より、賛美リーダーのリードが素晴らしかったです。ローマのサンタ・チェチーリア音楽院で声楽の勉強をしている若い台湾人女性ですが、素晴らしい賛美の賜物の持ち主で、彼女のリードからイエス様の溢れる愛を感じ、涙が止まりませんでした。彼女は、翌日、教会の賛美チームを率いて、私のコンサートの始まりの会衆賛美を導いてくれました。



♪ 伝道コンサート(8月17日)

コンサートの日の朝、教会の方々が、サン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂に連れて行ってくれました。その後、皆が延々と歩き始めました。「どこへ行くのですか？」と尋ねましたら、「トレビの泉に。でも、あと 30 分も歩けば到着するから」、と言われた時には、時すでに遅し。雑踏の中、引き返すわけにもいかず、結局 35 度の炎天下を、往復 3 時間も歩くことになりました。

この日の午後、やっとスペイン語の分かる通訳者が見つかりました。彼女が 4 時に教会に来るというので、昼食後、休む間もなく教会へ向かいました。彼女と念入りな打ち合わせをし、歌のリハーサルをしました。6 時になると、PA の人が来て、マイクテストをして欲しいと言われ、結局、2 度のリハーサルをしました。私は、体力も声も極限状態になってしまい、神様が力を与えてくださるように祈りました。そうすると、少しずつ元気が回復して行くのが分かりました。7 時、教会のご夫妻がレストランに招待してくださいました。

実は私は、聖会の後だし、みんな疲れて、しかも日本人のコンサートにはあまり人は来ないだろうと思っていました。ところが、食事が終わって8時20分に教会に入ると、もう人で一杯でした。特に若者と子供が7割ほどを占め、合わせて600人以上の入場者だったのではないかと思います。リハーサルの時から冷房を入れてガンガン冷やしていたはずの教会が、人の熱気で暑くなっていました。



コンサートは8時半から始まりました。そして、最後の曲、「ああ感謝せん」を中国語で賛美する前に、私はみ霊の強い促しを感じ、日本が中国にしてきたことへの謝罪へと導かれました。

一瞬、会場がシーンと静まり返りました。時折泣きわめいていた幼子の声さえ聞こえなくなりました。大人から子供まで、私の謝罪を受け止めてくださったことを感じました。

その後、顧先生が力強いメッセージをされました。メッセージの後、司会者が、私に続けて賛美して欲しいと言ってきました。でも、通訳者は、私の賛美と証しはもう終わったと思って、すでに家に帰ってしまった後でした。

それが分かった瞬間、すでにステージに上がっていた私は、恐ろしいことに、何と片言しか話せないはずのイタリア語で話し始めてしまったのです！ペンテコステに与えられた異言ほどではなかったでしょうし、滅茶苦茶な文法だったと思うのですが、とにかく、口をついてスラスラと言葉が出てきました。

会場の皆さんと共に何曲か一緒に歌いましたが、それは天にも届くような絶唱会衆賛美でありました。私は会衆の熱気に圧倒されて、髪は逆立ち、最初から汗だくであったのに加え、全身から湯気が出ているのではないかと思われたほどでした。**（写真：顧先生ご夫妻、オーガナイザーの呉さん、賛美チームの皆さんと）**



結局、コンサートが終わったのは11時を回ってからでした。その夜は疲れ果てて泥のように眠りました。

翌朝、教会の役員の方々が、ホテルに挨拶に来られました。み霊に溢れる祝福のコンサートであったこと、皆さんが大喜びで帰られたこと、そして、何と、昨夜のコンサートはあっという間に終わってしまった、もっと聞きたかったと言われ（私にとってあんなに長いコンサートは生まれて初めてだったのに！）、腰が抜けるほど驚きました。でも、これこそが、世界にたくましく生きてきた華人パワーなのだと思います。

フィンランドの大会で、ある先生が、欧州宣教は、今、アジア人が担う時代になっているとおっしゃいました。私もほんとうにそうだと思います。今、中国で、若者の間に大きなリバイバルが起こっているように、欧州の華人の若者も、どんどん信仰に導かれています。華人は、今、欧州で大きな力を持ち、世界中に強力なネット

ワークがありますから、華人クリスチャンたちがその波に乗ってキリストの救いを伝えていくなら、欧州ばかりでなく、世界の大きな伝道の力となっていくでしょう。

欧州日本人クリスチャンも、数は少ないですが、主のみわざに励むことに関しては負けてはいられない、と思いました。フィンランドであんなに霊的な恵みを分かち合うことのできた私たちなのです。「ヨーロッパから、私たちがキリストの風を吹かせなくっちゃね！」と、5年前の8月の暑い日に天に召されたオスロの福田雅子さんが、生前いつも語っていたことばを思い出し、主が私たちのその願いを前進させてくださることを、今、心から祈り求めています。

●お祈りください

これから、秋のコンサートの準備、税金申告、遅れているCDジャケット制作をいたします。すべてを祈りとともに、主の導きの中で進めることができますように。忙しい中ですが、どのような時にも主との交わりを第一とし、残されたドイツ滞在の 때가、キリストの深い愛をさらに知るための祝福の時となりますよう、お祈りください。

残暑の中、皆さまの健康と霊性が守られますように！
皆さまの上に、イエス・キリストの溢れるご愛を祈っています。

工藤篤子

